

資料

令和元年度協議体研修会

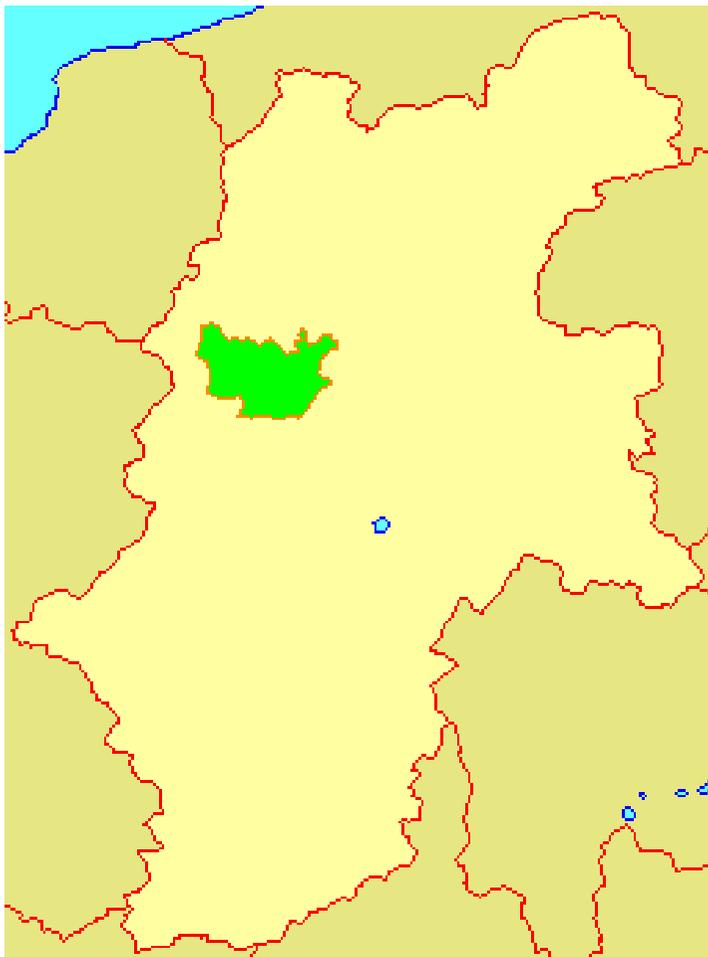
安曇野市生活支援体制整備事業の取組

～ 共に支え合い、元気に生きる～

令和元年7月22日

安曇野市生活支援コーディネーター 丸山 知子

安曇野市の高齢化の状況



人口	97,580人
65歳以上人口	29,990人
高齢化率	30.7%

人口：安曇野市住民
基本台帳より
(R1.7.1現在)

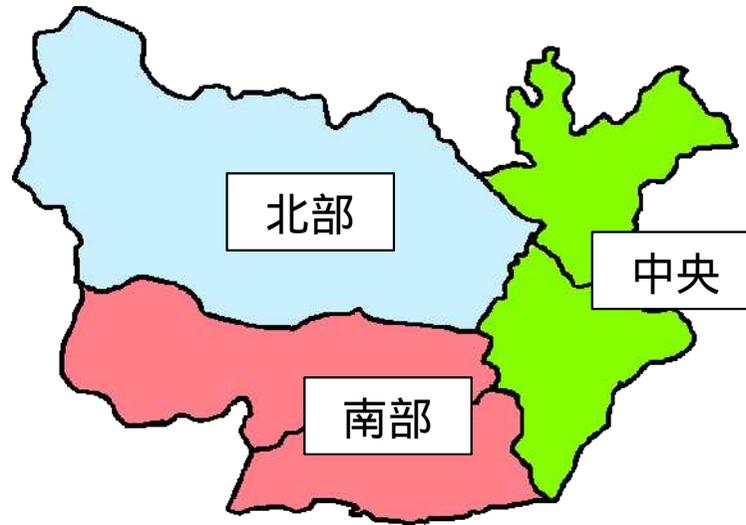
前期高齢者(65歳~74歳)	14,311人(47.7%)
後期高齢者(75歳~)	15,679人(52.3%)

地域別の高齢者の状況

地域包括支援センターの設置

旧町村単位 5 圏域に 3 つの地域包括支援センターが設置

穂高	
人口	34,007人
高齢者人口	10,633人
高齢化率	31.3%



明科	
人口	8,176人
高齢者人口	3,166人
高齢化率	38.7%

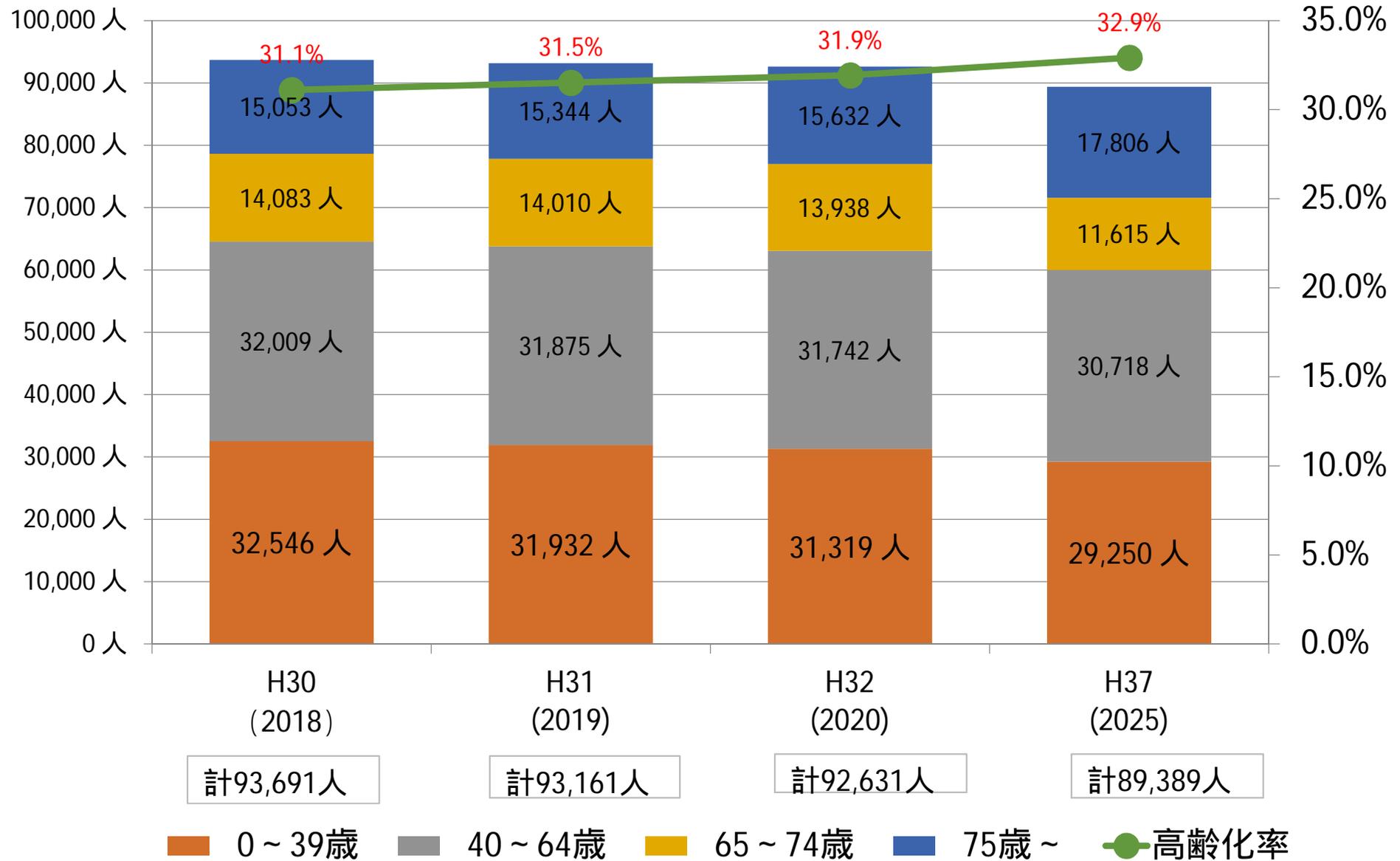
堀金	
人口	9,101人
高齢者人口	2,638人
高齢化率	29.0%

三郷	
人口	18,584人
高齢者人口	5,364人
高齢化率	28.9%

豊科	
人口	27,712人
高齢者人口	8,189人
高齢化率	29.6%

人口：安曇野市住民基本台帳より（R1.7.1現在）

これからの推計人口



第7期安曇野市介護保険事業計画より

安曇野市生活支援体制整備事業について

生活支援コーディネーターと協議体の設置等を通じて、地域の支え合いによる生活支援・介護予防を広げ、地域で多様な主体によるサービス提供を推進する事業

生活支援コーディネーターの配置(平成28年4月～)

5地域に生活支援コーディネーターを配置

豊科地域:JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん、
穂高地域、三郷地域、堀金地域、明科地域:社会福祉協議会

【主な活動】

地域に出向き、支え合い・助け合いの意識を広める
拠点介護予防教室後における支え手の相談支援
協議体の運営 など



バックアップ

協議体の設置(平成28年9月～)

5地域に協議体を設置

構成団体:支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、老人クラブ、シルバー人材センター、生活協同組合、商工会、包括など

【主な活動】

地域ニーズの把握、地域分析から必要なサービスの検討
関係団体との情報共有・ネットワークを構築する など

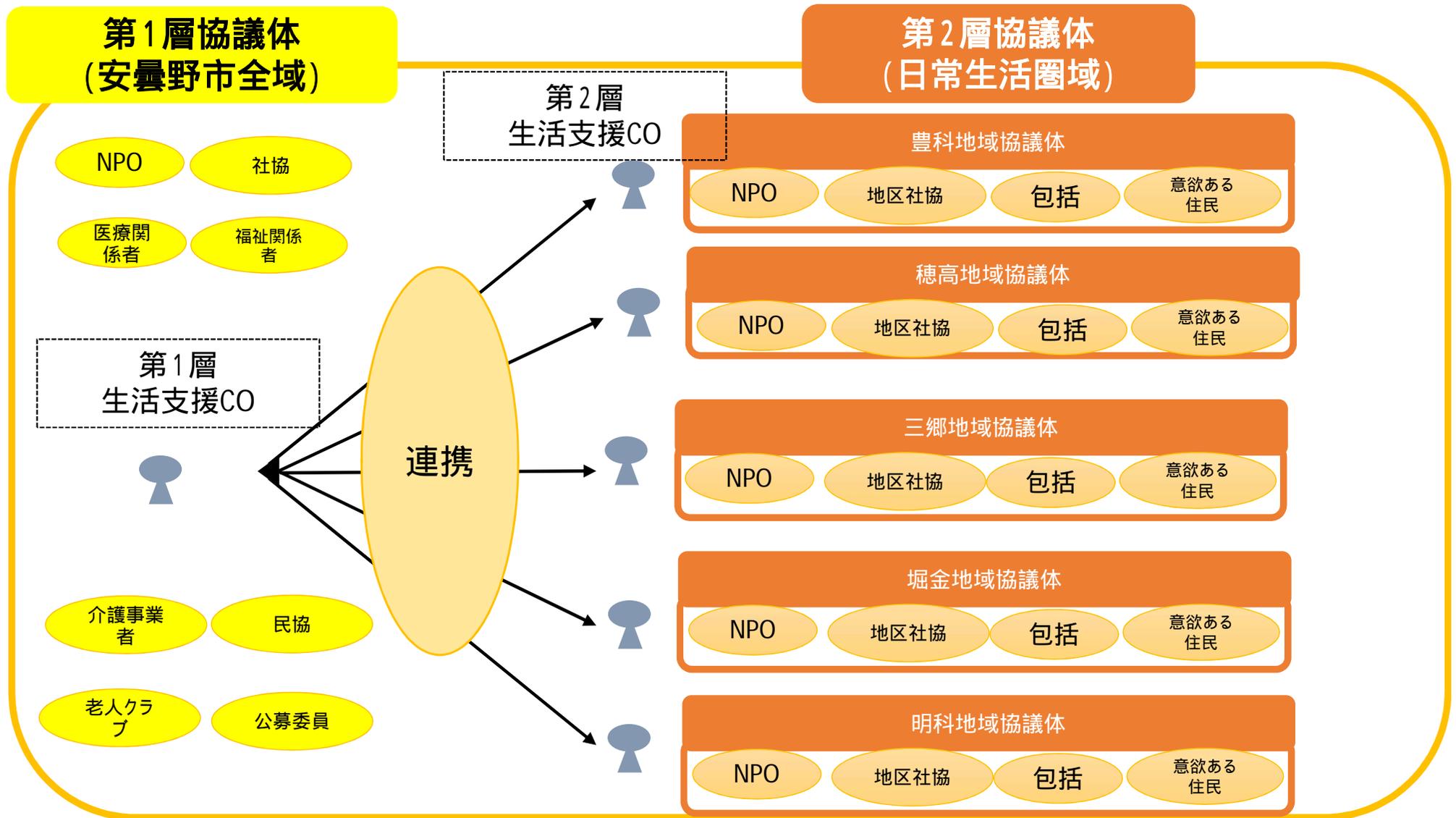


令和元年度の目標

地域福祉担当部門やまちづくり部門との連携も深め、地域のニーズに基づくサービスの創設及びそれを担う人の支援を進めます。

- 関連団体との情報共有・連携強化の場となる「協議体」活動は、区とのつながりを深め、地域の中での取組を着実に進めます。

生活支援コーディネーター・協議体の配置・構成のイメージ



第2層協議体は、活動を重ね、地域の中での認知度を高めることにより、区長をはじめとした意欲ある住民、事業者の参加を促していきます。

協議体研修会を開催しました

平成30年8月17日(金)に協議体活動を推進するために、生活支援コーディネーターの活動報告と厚生労働省老健局石井義恭氏を招いた講演会・グループワークを内容とした「**協議体研修会**」を実施しました。

活動報告

市の取組状況、各地域の協議体活動を報告し、情報を共有しました。



基調講演・ワークショップ

「協議体の役割と活動 ~ わがまちの地域包括ケア ~」
厚生労働省老健局総務課課長補佐 石井義恭氏



人生、スゴロク！？ 協議体活動は、選択肢を増やすこと！

自分らしく暮らしたいと思っても、そうはできない状況になってきた。人生をスゴロクで例えると、体調を崩して病院に入った 家族は遠方にいる 家族は面倒が看れない 一人で大丈夫か 一人は難しい 自宅ではなく、施設へ。このことは、本当に望む暮らしか。選択が自分の意志とは別におのずと決まってきたくないか。選択肢を増やしていれば自分らしい生活ができるのではないか。選択肢を増やしていくために、地域で何があったらよいか。地域ごとに考えていく。それが協議体に求められている。

各地域の協議体活動の情報共有をするとともに、協議体活動が充実するよう、先進地の事例を交えたテーマに基づいた研修会を定期的を開催していきます。

地域支え合い推進フォーラムを開催しました

平成30年12月8日(土)に「地域とつながり、いきいきと暮らす」をテーマに、ご近所福祉クリエイター酒井保氏による基調講演、市内の3団体によるパネルディスカッションをプログラムとした「**安曇野市地域支え合い推進フォーラム**」を開催しました。

基調講演

「つながりからうまれる支え合い
～あなたは、どんな地域(まち)に暮らしたいですか?～」
ご近所福祉クリエイター 酒井保 氏



報告団体

アルプス区体操教室
健康づくり推進員 常田 佐代子氏
アルプス区長 百瀬 陽子氏
シルバーカフェ安曇野
代表 清水 百合子氏
代表理事 北原 修氏
踏入区
踏入区長 下里 秀人氏



生活支援コーディネーターの紹介

講演の中では、生活支援コーディネーターを紹介し、生活支援体制整備事業をPRしました。



市のホームページから当日の資料及び映像を見ることができます。(http://www.city.azumino.nagano.jp)

今後も、地域の支え合い活動等を紹介し、市民への支え合いや助け合いの意識を広げ、地域づくりをすすめるフォーラムを開催していきます。

平成30年度安曇野市生活支援体制整備事業
安曇野市地域支え合い推進フォーラム
いま、あなたがいる地域は、地域のつながりを感じますか。
今年最後のイベントとして市民に楽しんでもらいたい。地域とつながりを感じませんか。
今年も、10年連続で開催します。楽しんでいただければ幸いです。
日時 平成30年12月8日(土) 13:15～16:00
会場 安曇野市役所本庁舎 4階 大会議室
事前申込不要 定員200名
基調講演「つながりからうまれる支え合い」
13:20～14:20
基調講演者 酒井保氏
パネルディスカッション「地域とつながり、いきいきと暮らす」
14:40～16:00
参加団体
アルプス区体操教室 代表 常田 佐代子氏
シルバーカフェ安曇野 代表 清水 百合子氏
踏入区 代表 下里 秀人氏
お問い合わせ ☎71-2472 (e-mail: ka-kajigohden@city.azumino.nagano.jp)

生活支援サービスガイドブックを作成しました

介護保険外サービスの情報や、地域の支え合い・助け合いの情報がまとまっています。



生活支援サービス

買い物・配達・配食
通院・外出支援
家事支援・ゴミ出し
安否確認・見守り・声かけ
出前講座 など

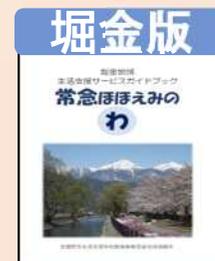
地域にあるつながりや
本人の持つ力を大切に
します

通いの場

高齢者サロン
健康体操
ボランティア活動
趣味・生きがい活動
NPO・介護事業者の活動 など



延べ484件
の情報



安曇野市役所本庁舎・各支所及び各地域の生活支援コーディネーターの窓口で配布をしています。
また、市のホームページからもダウンロードできます。(http://www.city.azumino.nagano.jp)

サービスや活動の場を必要としている人へ情報をつなげるとともに、内容を充実させながら、掲載団体の周知広報による活性及び団体間の情報の共有を進めます。

支え合い事業体制整備補助金

生活支援や介護予防を始めたい団体の備品購入等の立ち上げを支援します。

補助対象	下記の内容に補助していきます。 <ul style="list-style-type: none">・認知症カフェ(軽度認知障がい及び認知症の高齢者の皆さんが自ら活動し、楽しむことができる場)・高齢者サロン(地域住民のどなたでも気軽に集える場)・高齢者の見守り、配食サービスなど・健康体操教室 など
対象団体	住民組織(区及び隣組に相当する地縁団体組織等) ボランティア団体 NPO法人 社会福祉法人 介護事業者
対象経費	事業実施に必要な経費のうち、次に掲げるもの 備品購入費 施設改修費 なお、補助対象経費と同一の経費に対して、別の補助金や交付金等を重複して受けることはできません。
補助金額	1ヶ所あたり対象経費の2分の1以内、上限30万円
問い合わせ先	介護保険課介護保険担当(71-2472)

アクティブシニアがんばろう事業補助金

予算
終了

健康増進や介護予防のために健康づくりの活動を定期的に行う団体に活動費の一部を助成します。

補助対象	健康体操、軽体操、ウォーキング、ヨガ教室等で高齢者の運動機能の向上を目的としたもの。 囲碁、将棋、健康麻雀、歌、楽器、陶芸等趣味活動で市民の介護予防の促進を目的としたもの。
対象団体	次の条件を満たす団体に補助します。 ・代表者が市内に住所を有していること。 ・40歳以上の市民が8人以上含まれていること。ただし、会員のうち65歳以上の市民が5割以上含まれていること。 ・2ヶ月に1回以上の定期的活動実績があること。 ・市から当該団体に加入を希望している市民の受け入れ要請があったときは、原則として受け入れが可能であること。 ・市、社会福祉協議会等から別の補助金の交付を受けていないこと。
対象経費	講師謝礼 会場使用料
補助金額	活動が月2回以上の団体 の合計額の半額(年間上限12万円) 活動が月2回未満の団体 の合計額の半額(年間上限6万円)
問い合わせ先	長寿社会課長寿福祉係(71-2254)

認知症カフェ運営事業補助金

認知症カフェの開設を定期的に行っている団体に、**運営資金**の一部を助成します。

認知症カフェの定義	軽度認知障害及び認知症の高齢者等その家族等をはじめ、地域住民並びに専門職の誰もが気軽に集い、認知症状の悪化防止、相互交流及び情報交換を目的として、主体的に参加できる場をいう。
補助対象	下記の内容に補助していきます。 ・市内に住所を有する団体であること。 ・市民を主な利用対象者としていること。 ・認知症カフェを月に1回以上継続的に開設し、1回あたりの開設時間は、2時間以上であること。 市、社会福祉協議会等から補助金の交付を受けていないこと。
対象経費	人件費、報償費、印刷製本費、通信運搬費、保険料、使用料及び賃借料、物品購入費
補助金額	1ヶ所あたり対象経費から利用者負担金及びその他収入を引いた額の2分の1以内 年間上限6万円
問い合わせ先	介護保険課介護予防担当(71 - 2474)

協議体活動報告

令和元年7月22日

豊科地域コーディネーター	三澤	早苗	(NPO法人JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん)
穂高地域コーディネーター	竹内	紀子	(安曇野市社会福祉協議会)
三郷地域コーディネーター	森下	真義	(安曇野市社会福祉協議会)
堀金地域コーディネーター	野本	博	(安曇野市社会福祉協議会)
明科地域コーディネーター	小林	啓孝	(安曇野市社会福祉協議会)

豊科地域協議体

協議体の構成メンバー

シルバー人材センター 区長会 NPO法人からだ堂 豊科支部社協
コープながのくらしの助け合いの会 NPO法人縁舎 NPO法人生活支援舎
民生児童委員協議会 ボランティア連絡協議会 老人クラブ連合会
中央包括支援センター 安曇野市社協豊科支所 安曇野市地域づくり課
安曇野市介護保険課 NPO法人あんしん

15団体

これまでの活動の状況（特色のあったこと、効果があったことなど）

協議体メンバーの情報交換 縦から横の繋がり(連携)へ
地域の中の活動と課題を考える 区の活動・児童館の活動
「地域で出来る協働、共生について」
外出・移動手段について
地域ふれあい交流会開催(夏・秋)

これからの協議体活動の展開（地域住民に向けて活動したいこと、サービスの展開など）

課題(継続)
外出・移動手段について(現状把握・地域に正確な情報を伝える為の学習など)
元気な高齢者の社会参加・生きがいの場づくり(70歳代だからこそ出来る事)
地域ふれあい交流会実施(生活支援体制整備事業について広報活動)

穂高地域協議体

協議体の構成メンバー

社会福祉法人 孝明 孝穂館	穂高支部 社会福祉協議会
公益社団法人 安曇野シルバー人材センター	穂高地区 民生児童委員協議会
NPO法人 なかむら 宅幼老所 なかむら	ボランティア連絡協議会 穂高支部
NPO法人 JAあづみくらしの助け合いネットワーク あんしん	安曇野市北部地域包括支援センター
介護老人福祉施設 有明苑	安曇野市 介護保険課
福祉ステーション ひまわり あづみの居宅介護	安曇野市 地域づくり課
安曇野市 老人クラブ連合会 穂高支部	社会福祉協議会 穂高支所

14 団体

これまでの活動の状況（特色のあったこと、効果があったことなど）

・地図や調査報告を用いて各区の分析作業を行った。

＜調査項目＞ 高齢化率・認定率・区への未加入率・資源の数・その他メンバーが知っている情報など

・穂高地域学習会の開催

各区の分析データを用いて、参加者に自分たちの地域の良いところや強み、心配なことや悩みなどを考えてもらえるようなワークショップを実施した。その後、さらに小地域で地区の実情や意向に沿った内容の地域学習会を開催していただくよう投げかけた。（参加者によるアンケート調査の実施。今後、地区での学習会を希望する地区の回答もあった。）

これからの協議体活動の展開（地域住民に向けて活動したいこと、サービスの展開など）

・より小地域単位での地域学習会が行われるよう地域に呼びかけていく。

令和元年度実施済 地域学習会(1地区)・地域学習会のおすすめチラシの配布(地区社協会長・区長)

・地域学習会を実施するなかで、新たな課題や仕組み・資源等を把握した場合、協議体内で共有し今後協議体としてできることを模索していく。

穂高地域協議体

安曇野市生活支援体制整備事業 穂高地域

地域学習会 開催のおすすめ



みなさんは、自分の住んでいる地域のことをどのくらい知っていますか？
地域にどんな場所があって、どんな人が住んでいるのか、自慢できること、もう少しこうなったらいいなと思うこと…などなど考える機会をつくりませんか。地域を知ること、住みやすい地域をつくる第一歩ではないでしょうか。「福祉」＝「ふだんの 暮らしの しあわせ」をぜひ住民の皆さんで創っていきましょう。

生活支援コーディネーターを中心に社会福祉協議会がお手伝いをさせていただきます。
地域学習会開催のご希望がある場合は、安曇野市社会福祉協議会穂高支所（☎2-2940）までご連絡をお願いします。

【具体的な地域学習会の例】

例①

- ・安曇野市社協「福祉員」について
- ・なぜ「福祉員」の活動が必要なのか
- ・これから「地域の一員」として、できることを見つけよう

例②

- ・地域のなかのいいところ探し（人・物・場所・活動などなんでも社会資源です）
- ・〇年後の地域を想像してみよう
どんな地域になってほしいのか、どうすればそうなるのかを考えよう

例③

- ・地域の中の困りごとを探そう
（自分や周りの人などから聞いたことなどほんの些細なことでも気軽に）
- ・困りごとの整理をしてみよう
（ちょっとした配慮で解決すること・もう少し地域で考えたいことなど）

例④

- ・具体的な困りごとについて、もう少し考えてみよう。（以下はほんの一例です）
- ☆認知症の人が心配
→まずは認知症の正しい理解から
- ☆見守りが必要な人がいる
→「福祉員」の役割の理解。福祉員のほかに地域でできる見守り活動を考えるなど
- ☆災害時の心配
→災害時住民支えあいマップについて
- ☆日中ひとりで寂しい・友達が少ない
→隣の人の顔も知らない
- 居場所・交流の場づくりについて考える
（サロンや交流事業など）

※上記はほんの一例です。
内容は、ご希望に沿えるよう、ご相談させていただきます。開催時間は60～90分が理想ですが地域の実情にあわせてしますので、お気軽にご相談ください。
（開催日時は、土日、夜間でもOKです）

「地域学習会 開催のおすすめ」 チラシの配布

- ・配布対象
地区社協会長
区 長

ご相談・お問い合わせ：安曇野市社会福祉協議会 穂高支所 生活支援コーディネーター（竹内）
安曇野市穂高 5808-1 ☎82-2940 / FAX82-9621 Email hotaka@azuminoshakyo.or.jp



三郷地域協議体

協議体の構成メンバー

安曇野シルバー人材センター
NPO法人コンプタ・キュリア デイサービス「まがりっと太田屋」、居宅介護支援事業所「まがりっと」
NPO法人アルウィズ デイホーム「楓」 NPO法人JAあづみくらしの助け合いネットワークあんしん
安曇野市老人クラブ連合会三郷支部 三郷支部社会福祉協議会
三郷地域民生児童委員協議会 安曇野市ボランティア連絡協議会三郷支部
安曇野市南部地域包括支援センター 安曇野市介護保険課
安曇野市地域づくり課 安曇野市社会福祉協議会 三郷支所

12団体

これまでの活動の状況（特色のあったこと、効果があったことなど）

・30年度までの取組み

「高齢者の足の問題」「老人クラブ活動と課題」について話し合った。

・本年度の取組み

高齢者の生活を支える「地域の担い手」について協議を行っている。

地域内で行われている様々な活動(いきいきサロン、老人クラブ、ボランティア、小中学生、企業をはじめとする活動全般)は、活動をしている当事者の目的は違っても、地域を担う活動になっている可能性が高く、意識次第で担い手になるのではないかという話合いがされた。担い手の活動について地域住民へ発信していく手段について、今後検討していく。

これからの協議体活動の展開（地域住民に向けて活動したいこと、サービスの展開など）

- ・地域の担い手となるような、素敵な活動を探す(宝探し)。
- ・担い手活動について、地域住民に投げかけていく方法を協議体で検討し、実際に地区に出ていく。

堀金地域協議体

協議体の構成メンバー

有限会社宗明会见岳荘 公益社団法人安曇野シルバー人材センター堀金地域担当
NPO法人JAあづみくらし助け合いネットワークあんしん 安曇野市老人クラブ連合会堀金支部
堀金支部社会福祉協議会 安曇野市南部地域包括支援センター
堀金地域民生児童委員協議会 安曇野市ボランティア連絡協議会堀金支部
堀金公民館 安曇野市身体障害者福祉協会堀金支部
配食ボランティアまめの会 知識経験者 9地区社協会長(7地区区長兼務)
安曇野市社会福祉協議会堀金支所

22団体

これまでの活動の状況 (特色のあったこと、効果があったことなど)

各地区にサロンがどのくらいあるのか調査を行い、その中で「趣味や体操、スポーツなどもサロン(集いの場)になるのではないか」との意見が協議体委員より寄せられ、お茶のみだけでなく、幅広く集いの場について調査を行った。また、把握した集いの場についてどこで開催されているのか、趣味・サロン・体操・スポーツで色分けをし、各地区のマップに落とし込む作業を行った。こうした今までの協議体の活動について研修会を開催し周知した。

これからの協議体活動の展開 (地域住民に向けて活動したいこと、サービスの展開など)

課題として、役員やリーダーのなり手がいないことがあがっている。地区社協会長、区長等を協議体メンバーに加え、小単位での課題解決のためのシステム作りを構築して行きたい。

明科地域協議体

協議体の構成メンバー

特別養護老人ホーム孝明館 安曇野薬剤師会 安曇野シルバー人材センター 明科地区民生児童委員協議会 明科支部社会福祉協議会 安曇野市老人クラブ連合会明科支部 安曇野市ボランティア連絡協議会明科支部 安曇野市中央地域包括支援センター NPO法人あんしん 安曇野市地域づくり課 安曇野市介護保険課 安曇野市社会福祉協議会

12団体

これまでの活動の状況（特色のあったこと、効果があったことなど）

平成30年11月より、地域課題の把握や担い手の発掘につながる住民参加型ワークショップの実施に向けた前段階として、明科総合福祉センターあいりすを会場に協議体主催「あいりすdeサロン」を開催。これまで4回開催、延べ参加人数122人。体操や出前講座などの企画と茶話会を行い、楽しく参加していただきながら、事業の周知、介護予防としての社会参加の推奨、介護予防に関する情報提供、参加者同士の交流などを行ってきた。協議体委員は企画・運営を行い、交代で進行を務めたり、茶話会に参加して地域の支え合いや困りごとについての情報収集を行ったりした。

これからの協議体活動の展開（地域住民に向けて活動したいこと、サービスの展開など）

あいりすdeサロンは、楽しみに毎回必ず参加してくださる方もいらっしゃる開催した意義はあったが、やはりあいりすに来られる方しか参加できず、また、地域課題の把握・担い手の発掘という長期目標も考えると、より我が事として捉えていただきやすい、区単位での開催が望ましいと考え、例えば地区社協のサロンなどでお時間をいただいて実施できるよう、内容を準備中。現行のあいりすdeサロンは、当初の目的であったワークショップの開催をもって一区切りの予定であるが、これまで参加してくださった方々が主体となって活動が継続されるよう、提案していきたい。また、地域の方に覚えていただきやすいよう、協議体の愛称を検討中。